

都道府県名	山形県
-------	-----

I 学校の概要

学校名	山辺町立山辺中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	2	17	29
生徒数	171	166	188	4	529	

II 研究の概要

1. 研究主題

個に寄り添い、学びの心と力を高める指導 ～個に応じた学習指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

A 習熟度別少人数学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学全学年全時間・・・生徒の理解状況に差が出やすい教科であるため。</li> </ul>
B 集中型（年間カリキュラムの中で特に必要な単元に絞って行う）TT学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科1，3学年1／3時間2学年2／3時間並びに国語2学年1／3時間</li> <li>・・・学習効果向上が期待されるため。特に理科は3年前より継続して行っている。</li> </ul>
C 選択教科学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・・・特に2，3年数学，英語では，補充発展型学習コースを設定する。</li> </ul>
D 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・・・単元別評価を導入する。</li> </ul>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○ テーマ	個に寄り添い、学びの心と力を高める指導 ～個に応じた学習指導を通して～
	○ 研究の見通し	<p>様々な学校生活場面において、生徒一人一人に教師が共に寄り添いながら、学びの心（自分の成長のために学ぶ必要性を感じ、学ぼうと思うこと。）と学びの力（学びの仕方がわかって自分から学べること。）を高めるにはどのようにすればよいかを実践研究する。</p> <p>特に学習学力面においては、教科部会を中心に、各教科における基礎・基本（学習指導要領で各観点別に目指すもの：付きたい力）の定着をはかるための、個に応じた指導の実践研究を行う。</p>
	○ 研究の内容・方法	<p>Aについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年第1章の単元が終了した段階で「評価テスト」を実施する。</li> <li>・評価テストの結果や、今までの数学の授業やテストなどから各自の理解度を考えて、以下の3つのクラスから一つ選択する。選択するときは保護者の同意を得る。</li> <li>・クラス編成</li> </ul> <p>1年・・・1，2組は Aクラス1，Bクラス1，Cクラス1                      3，4，5組は Aクラス1，Bクラス2，Cクラス1</p> <p>2，3年も同様に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの変更について 今後の状況に応じてあり得るものとする。</li> <li>・定期テストについて 全員同じテストで行う。</li> </ul> <p>Bについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1，3学年理科は年間授業時数の3分の1，2学年理科は3分の2の割合でTT授業を行う。</li> <li>・2学年国語は年間授業時数の3分の1の割合でTT授業を行う。</li> <li>・年間指導計画を考慮し、必要な単元時に集中してTT授業を計画する。</li> </ul>

Cについて

- ・全学年・全教科（教科によっては複数コースを開設する。）において選択教科授業を行う。
- ・数学，英語中心に補充・発展学習型コースを設定する。さらに他の教科においては，課題解決学習型コースなど多様なコース設定をする。尚，コース設定においては，各教科部会で年間指導計画を作成のうえ決定する。
- ・各教科部会において，個に応じた指導方法・関連した教材開発を推進する。

Dについて

- ・一教科一単元でA4版1枚の単元別評価を作成し，また生徒一人一人にファイルを準備し，単元評価ごとにそれに挟んで生徒に配布する。
- ・定期テスト（学期ごと2回×2学期制）はあるが，それとは別に学年教科ごとに単元別テストも実施する。

平成16年度

- テーマ  
個に寄り添い，学びの心と力を高める指導 ～個に応じた学習指導を通して～
- 研究の見通し  
平成15年度の取り組みを基本的に踏襲しながらも，改めるべきところは改めながら，更に深めていく。
- 研究の内容・方法

Aについて

- ・数学だけでなく，できれば英語（TTも視野に入れながら）にも取り入れていく。
- ・習熟度別少人数学習だけでなく，その中にTT学習や原学級学習など，単元教材に応じて弾力的に活用する。

Bについて

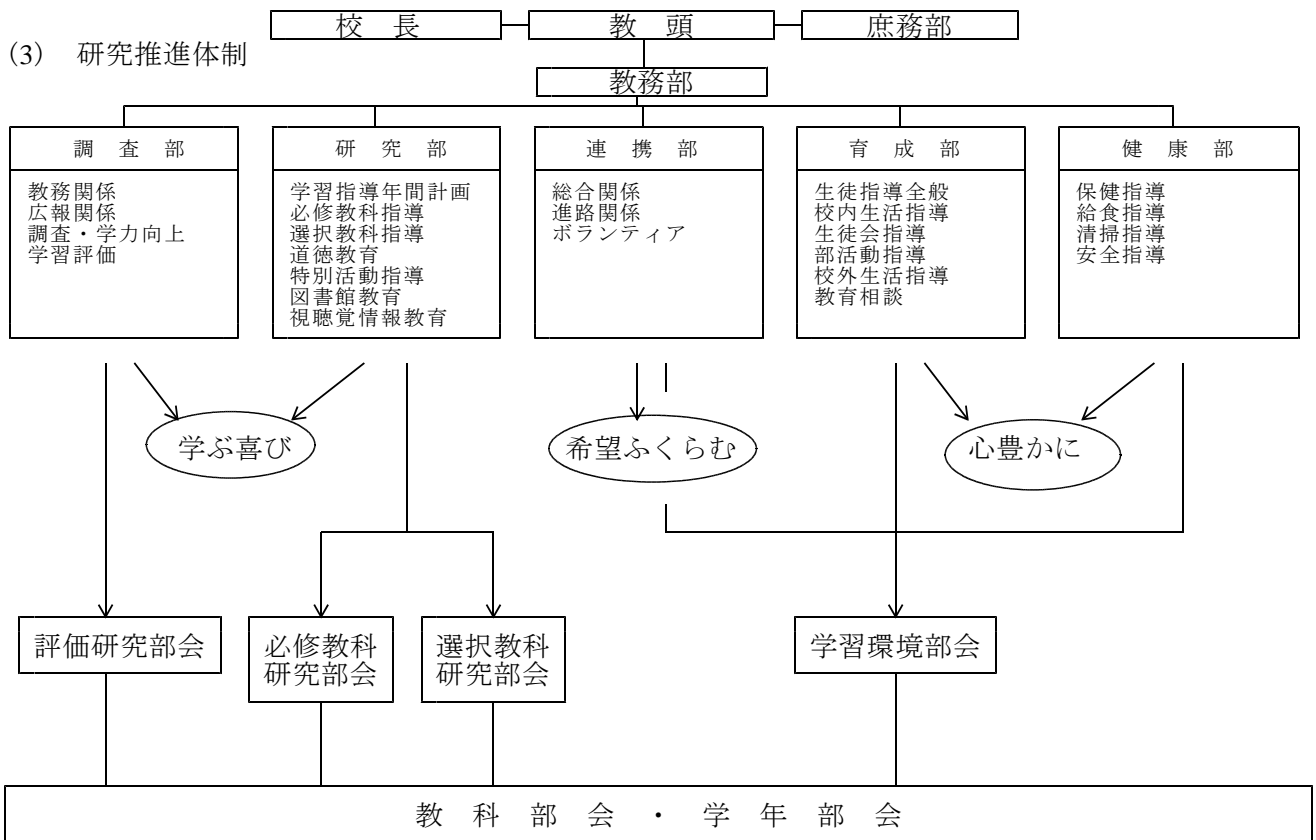
- ・クラス内TT学習の中に習熟度別学習の場面を取り入れるなど，教材に応じて弾力的に活用する。

Cについて

- ・評価規準，基準を教科ごとに更に明確にしていく。

Dについて

- ・より活用しやすい形式を模索する。



Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

※習熟度別学習に対する三年生の意識調査（平成15年9月実施）

(1) 下記の文で現在の気持ち、状態にあてはまるもの全ての番号に○をつけなさい。

- ①以前よりわかるようになった。 44%
- ②以前より質問しやすくなった。 32%
- ③以前より勉強するようになった。 36%
- ④以前よりわからなくなった。 10%
- ⑤以前より学習意欲がわからない。 8%
- ⑥あまり変わらない。 21%

- (2) ①習熟度別のクラスで授業をしたい。 47%
- ②各学級で授業をしたい。 8%
- ③場合によって習熟度別クラスで学習したり、各学級で学習したりと混ぜてほしい。 45%

※学校に関する保護者アンケート（全学年全生徒の保護者対象 学習関係の部分のみ一部抜粋 平成15年12月実施）の結果より

「学ぶ喜び」

Q5 子ども達の学ぶ心（自分の成長のためにいろいろなことを勉強しようと思うこと）を高めようとして取り組んでいます。子ども達の学ぶ心が高まっている。{ A, B, C, D }

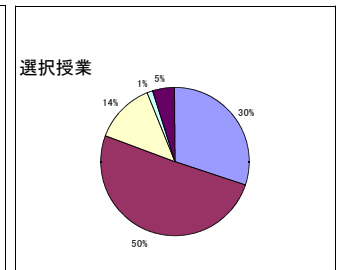
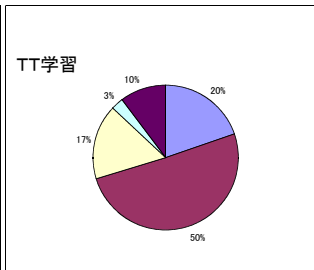
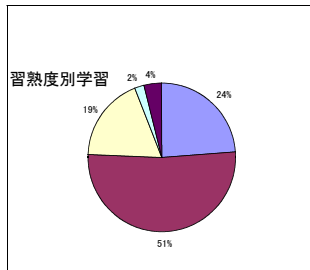
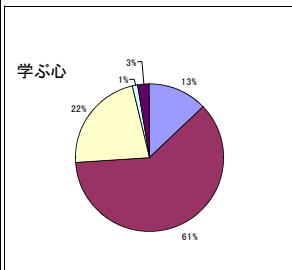
Q6 数学は習熟度別学習にして子ども達の学びの力を高めようとしています。子ども達にとって習熟度別学習は効果的であった。{ A, B, C, D }

Q7 理科を始めいくつかの教科で、先生が2人で教えるTT授業に取り組んでいます。子ども達にとってTT授業は効果的であった。{ A, B, C, D }

Q8 どの学年でも、子どもがいくつかの教科から選べる選択教科を取り入れております。子ども達は選択教科に意欲的に取り組んでいる。{ A, B, C, D }

それぞれの質問について {A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない}

<input type="checkbox"/> よくあてはまる	<input type="checkbox"/> だいたいあてはまる	<input type="checkbox"/> あまりあてはまらない
<input type="checkbox"/> まったくあてはまらない	<input type="checkbox"/> わからない	



Aについて（数学科より）

- ・少人数なので、一人一人に指導できる機会が増えた。その結果、以前より定着度はどのコースでも高くなってきている。また、質問がしやすくなり、わからない問題をほおっておかなくなった。わかろうと努力できるようになった。わかる喜びが増えた。
- ・そのコースの学習内容に合う生徒は特に伸びた。自分の実力を十分に発揮できて、満足感を得ている生徒も少なくない。

Bについて（理科、国語科より）

- ・うまく理解できない生徒に対して、より多くの手がさしのべられるので、以前だとわからないままになっていたものが、少しでも理解できるように指導することができる。

Cについて（選択教科研究部会より）

- ・生徒は学習活動への楽しさを感じてきている。ねらいに沿った気づきもある。（数学）
- ・単純な活動で目標や成果がはっきりしているので良い取り組みができています。（漢字検定）
- ・身近な中に課題を見つけることができ、解決する姿勢ができてきた。（理科）
- ・個々のペースでゆとりのある取り組みができた。新たな技法を体験できた。（美術）

Dについて（評価研究部会より）

- ・単元別評価への取り組みを通して、評価を生かす指導の工夫として、各学年ごとの放課後の補充学習会や低位生徒への個別指導を実施することができた。～学習チューターの活用～

## 2. 今後の課題

- Aについて（数学科より）
- このコース設定では、以前とあまり変わらない生徒もいる。コースの設定に工夫が必要である。A、Bコースの人数を10名程度の少人数に、Cコースのみ40名程度とすることで、基礎基本の定着がよりできるようになるのではないかと。また、Cコースでの課題の練りあいもできるようになるのではないかと。
  - それぞれのコースに合う課題の設定を十分に検討する必要がある。また、家庭学習の仕方、内容も指導検討していくことが大切である。
- Bについて（理科、国語科より）
- 今年度は、基本的にメインTサブT形式で行ってきたが、来年度は更に、クラス内TTの中にも習熟度別少人数を取り入れた形や課題別に分かれる形など、様々な形態にも取り組んでいく必要があると思われる。
- Cについて（選択教科研究部会より）
- 授業者単位でない教科としての評価の仕方や統一的な基準づくりが必要。
  - 学校全体としての選択教科の方針を定める。
  - 豊かな活動のできる教室・施設がない。
  - 持ち授業が増えるなど、計画的な準備がきびしい。
  - 生徒数が多かったり、個別の課題学習を広げすぎたりすると、教師1人での対応が苦しくなる。
  - 技能の高まりが感じられない。学習活動への工夫が必要。
  - 1年生は授業間隔が空きすぎ、つながらない。まとめてやる方法もある。
- Dについて（評価研究部会より）
- 定期テスト、単元テスト、～テストと時間がとられ、授業時数がぎりぎりであるので、単元テストに絞り込む必要があるのではないかと。（定期テストはなくても良いのではないかと）
  - 特に技能教科においては教科の特性があり、主5教科のように学校全体で統一してやるやり方には無理があるのではないかと感じる。時数が少ないので、評価のための授業というわけにはいかない。
  - 単元別評価が本当に生徒にフィードバックしているのかどうか、吟味する必要がある。
  - 校内LANシステムを最大限活用して、事務をできるだけ簡素化していく必要がある。

## IV 学力把握のための学校としての取組

- 教研式全国標準診断的学力検査（NRT）毎年4月全学年実施
- 学期2回の定期テスト、各学年教科ごとの単元テストなど

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年 5月 校内研修会（山形大学教育学部附属教育実践総合センター廣田信一助教授）  
内容：学習者の特性ならびに認知的機能に焦点を当てて
- 6月 第1回校内授業研究会（社会、保健体育）
- 7月 村山地区研究協議会 兼校内研（数学習熟度別少人数指導、理科TT指導）
- 8月 第2回及び第3回校内研修会（外部研修報告他）
- 10月 第3回校内授業研究会（国語TT指導、音楽）
- 11月 第4回校内授業研究会（数学習熟度別少人数指導）
- 天童・東村山地区教育研究協議会 研究主任部会研究担当者交流会
- 山辺の子どもを育てる会 山辺町内小中学校校内研究担当者交流会
- 12月 第5回校内授業研究会（選択国語、選択社会、選択理科）
- 平成16年 1月 第6回校内授業研究会（英語、技術・家庭）

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             3学級以下                               4～6学級  
 7～9学級                               10～12学級  
 13～15学級                               16学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                               T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】             国語                               社会                               数学                               理科  
 外国語                               音楽                               美術                               技術・家庭  
 保健体育                               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                               無